

第 37 回目 新しい人を身に着る (9)

はじめに

- 今回は「新しい人を着る」というシリーズの第9回目です。まずは聖書の箇所を開きましょう。

【新改訳改訂第3版】エペソ人への手紙 5章 15～17節

- 15 そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、
- 16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。
- 17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。

- 説教題は「機会を十分に生かして用いなさい」ですが、テーマは「あなたがたは、賢い人のように、自分に与えられた機会を十分に生かして歩みなさい」ということです。テキストにあることばの意味を少し説明しなければなりません。まず、「そういうわけですから」という接続詞が意味する内容を理解する必要があります。

①「そういうわけですから」とは、「元に戻って言い換えると」という意味。つまり、「光の子どもらしく歩む」ということの言い換えです。この世にあって、この世とかがわりながら、この世に同化しないで生きるキリスト者の対処の仕方こそ、光の子の歩みです。

②「光の子どもらしく歩む」とは、「主に喜ばれることが何であるか」を自ら見分けることです。それは、教科書的な、通り一遍の答えではなく、私たちの思索や生活体験の試行錯誤の中で、それぞれが、主体的に、自覚的に、主のみこころをふるい分け、応用問題の答えを見出していくことを意味します。このことはとても大切です。ただ一方的に教えられたことを鵜呑みにすることではなく、それを自分でよく考え、自分のものとし、責任をもって、自発的、主体的に行動することが求められています。

③このことが、「賢い人のように歩む」ということです。賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し(・・なさい。)つまり、勧めの中心は「よくよく注意する」ということです。

④そこで、今回のテーマは、賢い人のように歩む歩み方として、「**自分に与えられた機会を十分に生かして用いる**」ということなのです。

1. 自分自身の時を贖う

- エペソ 5章 16節「機会を十分に生かして用いなさい」の様々な訳は以下のとおりです。

「今の時を生かして用いなさい。」(口語訳)

「時をよく用いなさい」(新共同訳)

「今ある機会を十分に活用しなさい」(柳生訳)

Make good use of every opportunity you have. (TEV)

Redeeming the time. (NKJV)

אגרת שאול אל האפסים

- 「機会を生かす」「今の時」「今ある機会」、every opportunity you have . . .

ここに挙げた訳を見ると、一見、現在のことだけが言われているように見えます。「機会を生かす」つまり、チャンスを生かすということは「今しかない」わけですから。しかし、私たちは時間的・歴史的存在です。将来に向けて今の機会を、今の時を生かすためには、過去が意味あるものとなってつながっていなければなりません。

- 私がハッとした訳は NKJV の Redeeming the time ということばです。このことばの意味するところは、次のようなことではないかと思えます。

- ① 「時を贖いなさい」
- ② 「自分自身の時を買い戻しなさい。自分自身の時を取り戻しなさい」
- ③ 「自分の過去の出来事、現在、将来のすべてを意味あるものとしなさい」

- そもそも「リディーム」(redeem)とは「買い戻す」「取り戻す」という意味です。神が私に与えて下さった過去の意味ある出来事や経験を買戻す、取り戻す。単なる、悔いる、虚しい出来事に終わらすことなく、有効に自分のものとする、自分にとって意味のある、価値のある時として買い戻すことを意味します。ちなみに、redeem の名詞である Redeemer は、「贖い主」「救い主」という意味です。

- 自分の過去の時間、時を買い戻す、神が与えてくれたすばらしい恵みの機会(チャンス)として、取り戻すということが出来るのでしょうか。「はい、できるのです。」それは、神が私のすべてを支配しているということをして信じて、神の視点から自分の人生を見直すということです。このことが出来るならば、私たちの心にしばしば襲ってくる「虚しさ」「虚無感」に勝利することができます。

- 自分の人生において、多くの無駄な時を過ごしたと後悔していることはないでしょうか。もし、あのときこうしていれば、あの人の所為(せい)で自分がこんなはめになってしまった。あの人と出会わなければこんなことには . . . と自分の人生を悔いているならば、それは虚しい意味のない時でしかありません。しかし私たちは、自分の人生のドラマのすべてを見通すことはできません。過去のマイナスと思える時間を意味あるものに変えるためには、現在の自分、将来の自分を、時を支配しておられる神にゆだねる事です。ここで励ましとなる聖書のことばを見てみましょう。

【新改訳改訂第3版】ローマ人への手紙 8章 28節

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

- 神は、あなたが経験したすべてのこと—辛い経験、思い出したくもない経験、失敗の経験、また良いこと—、またこれから経験することもすべて—相働かせて益としてくださる。益と変えて下さるという事実です。もし、自分の時間を買戻して、意味のある時として、見直すことが出来るならば、その人は幸いな人であり、賢い人なのではないでしょうか。神の視点から自分の過去を見直し、現在、そして将来へと意味ある有意義な生き方を神は保障して下さるのです。そのことを信じることを使徒パウロはエペソ書で勧めているのです。

אגרת שאול אל האפסים

●自分にとって敵であった存在—自分を傷つけ、自分を悩ませ、自分の人生をダメにした赦しがたい存在が、最も自分を成長させ、神に近づけさせてくれた存在であったことを見直せるようになります。これは神がその人の心の目を開かせ、悟りの光を与えて下さらなければできないことです。

●自分の過去の虚しい、無意味とも思える時を神によって買い戻され、意味ある時であったことを知るという経験をjする者は、将来に向けて、現在の自分にふりかかるあらゆる出来事も意味ある、価値ある時として受け取れるようになります。

●私のことを少しお話ししましょう。私が妻とともに神学校に行き、卒業してこれから教会で本格的に働こうと意欲を燃やしていた頃、妻は、心の病—うつ病—になりました。信仰があるのになぜ? このことは私にとって解せない出来事でした。私は信仰的に解決しようと、聖書のみことばで励まそうとしました。すると事態はますます悪くなって行きました。結婚して8年過ぎてはいましたが、妻について私はほんとうに理解していなかったのです。今も、時折、うつで倒れることがしばしばです。そのため、私が家事—特に、食事の支度—をせざるを得なくなりました。しかしそれは強いられた恵みでした。当教会では、愛餐会を大切にしています。共に食事をするjことの大切さ、共食の大切さ、礼拝と共食は、車の両輪です。家族のしるしは共に食事をするjことですから。これが今日の家庭において崩れているのです。共食がいかに家族を建て上げるjことにおいて必要なことか、共食ができるjということは、家族の絆を大切に生きることが優先されます。・・・このようなことを教会で教えながら、食事を作ってくれる妻が倒れるならば、だれかがそれを補わなくてはなりません。かといって誰でもできるjということではありません。私は強いられて食事を作るjようになりますが、それはひとえに、自分に与えられた機会を生かして、用いたからです。

●牧師の仕事も、食事を作るjことも、ある意味でとてもよく似ているのです。牧師は、みことばを料理してみなさんに食べさせます。食事をつくるj者も、同じく料理して食べさせます。食べる人たちの顔を思い浮かべながら準備します。妻がうつで寝込んでくれるjことで、私が養われたのです。決して、無意味な時間を過ごしているjのではないのです。「神は、すべてのことを相働かせて益として下さるjことを知っています。」と告白できます。すべてのこと—さまざまなケースをここで話したとしたら、時間が何時間あっても話せないほどです。

詩篇 31 篇 14, 15 節

私は告白します。「あなたこそ私の神です。」

私の時は、御手の中にあります。

●この告白は、順境の時に言ったことばではありません。悲しみに尽き果てた者のことばです。しかも人の心からも忘れられ、「こわれた器のようになっている」人のことばです。そしてこの作者の祈りは聞かれ、「あなたのいつくしみはなんと大きいjことでしょう」と神を賛美しているjのです。そして自分だけでなく、他の人々にも「雄々しくあれ、心を強くせよ。」と主を待ち望む人々を励ましています。私の過去の時間や経験のすべてを買い取り、意味のある有意義な時として取り戻してくれる方を信頼することです。

2. 今、与えられていることの中に、将来、意味を持つものがある

●第二のポイントは、「今、あなたが与えられていること、しなければならないことの中に、将来、とても意味のあることが備えられているということです。ローマ書 8 章 28 節のことばを記した使徒パウロが、テモテという愛弟子に宛てた手紙にこう記しています。

テモテへの手紙第一 6 章 19 節

まことのいのちを得るために、未来に備えて良い基礎を自分自身のために築き上げるように。

※「まことのいのち」とは、神と人とのかわりにおける祝福の総称です。「未来に備えて良い基礎を築く」ための近道は・・・

- ① 今、自分に置かれている境遇から決して逃げ出さないこと。
- ② 今、自分に与えられていることに最善を尽くすこと。

●もし、「私の時は、御手の中にあります。」と告白する者であるならば、上の二つのことを実行することです。他のすべきことがあると思わないことです。あなたが神のみこころの中に、ご計画の中で意味ある、有意義な生き方をするための近道はこれ以外にはありません。自分に与えられていることに(仕事、課題、務め、趣味、遊び、あるいは強いられた状況の中でしなければならないことであっても)最善を尽くし、無駄にせずに、積み上げることです。

3. 自分の人生の節目となる「潮時を悟る」こと

●「機会を生かして用いる」ための最後のポイントは、自分の人生の節目となる「潮時を悟る」ことです。「潮時」とは、物事をはじめたり、終わらせたりするのに、一番良い時のことです。

【新改訳改訂第3版】伝道者の書 3 章 1~8 節

- 1 天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。
- 2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある。
- 3 殺すのに時があり、いやすのに時がある。くずすのに時があり、建てるのに時がある。
- 4 泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。
- 5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。
- 6 捜すのに時があり、失うのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。
- 7 引き裂くのに時があり、縫い合わせるのに時がある。黙っているのに時があり、話をするのに時がある。
- 8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦うのに時があり、和睦するのに時がある。

●あらゆることには、潮時というものがあります。「潮時」を見出すための判断材料として以下のことが考えら

אגרת שאל אל האפסים

れます。

- ① 環境・・・自分の人生に起こる様々な出来事（身近な人の死、行き詰まりの状況等）
- ② 相談・・・知恵と洞察を与えてくれる人の存在
- ③ 結果・・・これまでの行動の結果からの警告
- ④ 常識・・・知的・論理的に考える能力
- ⑤ 促し・・・こうしたい、こうしまいとする内なる促し
- ⑥ 平安・・・自分の決断や行動に対する心の平安

●結論として、以上のようにして、機会を十分に生かして、賢い人のように歩んでいきたいと思います。神からの知恵がひとりひとりの上に与えられますように。